広報 こすど
発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集兼発行人 矢部藤三郎

塵芥処理所建設など決まる

五月臨時町会

五月二十四日臨時町会が開かれ次の事が議決された。

一、塵芥処理所建設の件

塵芥の処理は各戸でもお困りでそれ〴〵処理がなされていましたが此度近代式の焼却場を建設し敏速衛生的な処理を計画しました。一日一、五〇〇貫焼却出来る設備で、集荷したものは即刻焼却します。煙突の高さも十八米になり煙害の心配もありません、予定地は下興野地内で予算額は集荷用自動車を含め

二、四四四、〇〇〇円也

昨年本町に於ても多数発生し最近も県内外に大量発生を見ておりますので、本町が主体となり新津市、五泉市と協同して県立小須戸病院に併設します。ベットは二十五床で総予算は九、三二四、〇〇〇円で国の補助は五、四一四、〇〇〇円と予定されています。

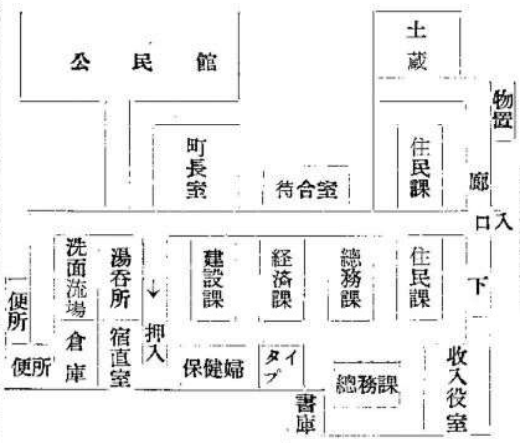
三、町役場課制改正の件

五課制であったものが四課制に改正されました。

町民サービスと事務簡素化の機構改革

五月臨時町会で五課制については次の図の通りが四課制に改められたがである。尚不明瞭の点に事務機能の能率と住民のついては総務課におたずサービスを目標とし、庁ねて下さい。

事務機構配置図



事務改善機構図

課	係	事務分掌
総務	上田友男	
	庶務	条例、規則、人事、給与、文書、消防、選挙、財産、台帳、企画
	財政	収入、支出命令、予算、財産、所得処分、物品購入、修繕、交付税
	税務	町税賦課徴収調査
建設	星野信吾	
	土木	道路、橋梁、河川、用地、物件、買収、登記、都市計画、建築、災害復興
	水道	水道事業、賦課、徴収、行事施行
経済	城丸富路	
	農林	主要食糧増産、農林指導、経営、家畜畜産、害虫病虫、農林建設、森林
	商工	商業振興、度量衡、産業育成、金融公庫、市場、計統、地代家賃、街灯
住民	佐久間忠一	
	戸籍	戸籍、住民登録、配給、記録、諸証明、その他人登録
	厚生	民生、年金、保健衛生、社福祉、国民健康保険、育事務
	保育園	保育事務
役室	早川清志	
収入		収入、支出、物品管理
農業委員会		農業委員会事務全般
議会事務局		議会事務全般

広報こすど

発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集兼発行人 矢部藤三郎

時局講演会

予定
一時　午後　生　先　敬　松　講師　新潟日報
館　日　民　井　日　期　日
公　十　月　七　場　所

県展に栄の入選

第十五回県美術展覧会は五月二十四日から約二週間にわたり小林、大和両デパートにてひらかれ連日多数の参観者でにぎわっていたが、小須戸より出品した作品の入選は次の通り

洋画の部

成田常信　ウデコキ
横山明男　水田
木村久三　四番町

小須戸婦人会の美挙

小須戸婦人会では此の度、チリ津波災害にあった北海道、東北の気の毒な人たちにお見舞したいとご寄附をおねがいしたところぞく〳〵と衣類やお金が集まり関係者をたいへんよろこばせた。さっそく役員が集まり関係者をたい当町からもお世話になっているので一人でも大ぜい参加することをのぞんでいる。

地へ送った。

日赤からこの行為に感謝され、小須戸婦人会に感謝状がおくられた。

衣類　五十一包
金銭　六千六百二十五円

なお来る二十五日、村松養老院を慰問する予定になっている。

増築か　二部授業か
悩む中学校の教室不足

中等教育は戦後十五年にして大改革をみた改訂指導要領がそれである。一般はこれを専門的なことがらとして大して関心をもたれないようである。ところがこれが増築問題の震源地なのである。更に根源を探ぐれば科学技術のめざましい進歩発展に発している。現今一国の教育の充実は中等教育で計るようになっている。それに六、三、三の直線型教育制度をとっているのは日本だけで、能力や進路に応じた複線型要望が強い。中学校教育は大きな曲り角に来ているのである。この改訂教育課程から町財政に関係をもつ分だけでも、科学技術教育、職業の教科（農、工、商、家）保健体育科などの新設や充実等があがってくる。

小須戸中学校は以前十九学級の時もあったが、昭和三十三年度十四学級の谷間から漸増をたどり来年度二十、再来年度は二十三と最高峰になり生徒数は一千百名。今年度もすでに校舎事情が悪く映写室と図書閲覧室はつぶされてるし、普通教室を木工室に当てるなど苦慮している。来年度の三学級増をどうするかがさしせまった大問題だ。無理におしこめば寺小屋式になる。高校入試や就職試験におちてしまってかわいそうだ。

十九学級の時の県基準との比較（図表）

室名	必要量	現在量	比較
普通教室	一九	一七	△二
体育館	二	一	△一
理科	三	一	△二
音楽	二	一	△一
芸能	一	〇	△一
調理	一	一	〇
被服	一	一	〇
		不適	不適
木工（電気）	一	〇	△一
金工（機械）	一	〇	△一
塗装	一	〇	△一
製図	一	〇	△一
農業	一	〇	△一
商業	一	〇	△一
図書	一	一	〇
		不適	
視聴	一	〇	△一
右附属室	一〇	三	△七

（図表）

増築は早い程いいことになる。教育は一生を支配する。校舎は人生位の使用年数をもつ、となれば将来を見通した増築計画が必要になる、この問題について学校当局は次のようにみている。

「この学校は将来十九学級規模です、これからの教室は能力と進路とを考えていくから実際の学級数は二十二、三になります。十九の普通教室は現在の校舎で間に合いますが造ってほしいのは特別の教室で、その特別教室を一時普通教室に使って不自由を忍ぶのがいいと思う。財政事情もあるのだし、とにかく二部授業のようなことは是非ともさけていただきたいものです」

間に合わせに使っている木工室を見ると、四間の五間の教室の半分に機械が三台あって、残った所に木工台がある。その間に危険防止の柵がある生徒のいる所がない、スイッチを入れ滑板を削ると騒音を校舎の隅々までまきちらす。六間に八間が基準の広さなのだそうだ。

中学校の「増築資料」から十九学級の場合を抜萃してみた。これは大変なことになる。教育課程の改訂は町の問題だ。

新しい中学校制度が発足したときの、生みの悩みにも似た時期が再びおとずれたのである。町の将来を見通した町民の批判検討がどうしても必要なのである。

美化される町道路

四・五番町から今月中に着工

町の発展と私達の日常生活に最も密接なつながりのある本町の街路は、ご承知の通り旧態依然として真に遺憾に堪えません。最近の自動車はますます大型となり交通量は日毎に激増致しまして砂ほこりが立ち、車のためにはね飛ばされる石でウインドーや陳列ケースのガラスが破損される等各店舗の被害はいうまでもなく町民の保健衛生または商店街の繁栄と美観の上からも、誠に憂慮すべき実状であります。隣接町村の模様また諸般の情勢を考察しますと道路舗装の実現は一日も急を要する段階に立ち至りました。

この間町御当局には私達の意をお汲み取り下され既に関係省、局に機会ある毎に陳情下された事は私達と致しましては心から感謝申上ぐるところであります。

以上大体今までの経過を申上げた次第でありますがこの度ようやく待望の舗装が道路拡張された五番町四番町にかけ三二〇米が六月より着工される運びに至り立派な恒久的舗装ができ上がる事になる。

○米五〇に拡張する意見は一致直ちに十二月定例町議会に町長並に議長宛請願書を提出、町議会の採択を得て県への請願を見るに至ったのであります。

この間町御当局には私達の意をお汲み取り下され既に関係省、局に機会ある毎に陳情下された事は私達と致しましては心から感謝申上ぐるところであります。

以上大体今までの経過を申上げた次第でありますがこの度ようやく待望の舗装が道路拡張された五番町四番町にかけ三二〇米が六月より着工される運びに至り立派な恒久的舗装ができ上がる事になる。

○米が六月より着工される運びに至り立派な恒久的舗装ができ上がる事になる。

○魚沼三山　奥只見　守門　編　独標登高会
○越後の山　編　川崎吉蔵
○アサヒカメラ年鑑　伴　俊彦
○現代女性講座（金銭について）　角川源義

新刊書が入りました

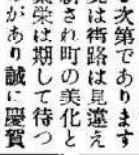
○自由との契約（三）（四）　五味川純平
○かげろう絵図（前後）　松本清張
○現代女性講座（男というもの）
○現代女性講座（手紙とあいさつ）　編　角川源義
○雷電（四）（春風秋雨の巻）
○調和の世界　武者小路実篤
○効果的な頭の使い方　KS　キーズ
○日常食のくふう　佃チカ　外
○科学は人間をどう見る　J　バトラー
○禁じられたデイト　エミリー・ハン
○出張社員　鳴山草平
○初志一貫　竹森一男
○蝦夷物語　子母沢寛
○塔　村松梢風
○新潟の農業（一）（上半期版）　水上　強
○巣の絵　雪太郎乳房
○ある斜面の夏子　角田喜久雄
○青年樹（一）　舟橋聖一
○石原慎太郎

小須戸町連合婦人会の役員になった人たち

会長　川村マツ
副会長　田中ヨシ子　保科光枝　高山マツ　加藤イチノ
会計　富所フミ
監査　奈良沢奈栄　楠原トヨ　白井ミサオ
幹事　町部植木百合子　長谷川淑子　富所フミ　尾リイ　佐久間ヒサ　大塚愛子　風間ヤス　押味ヨツ　岡田ミツエ　五十嵐章子　佐藤ヒデ　矢代田中山トク　大森ツル　長谷川ユキ　中村フサ　穴沢ヨネ　間島セン　鎌倉米田タケ　笹川トチ　天ケ沢保泉チヨウ　平間キヨ　三浦マイ　新保風間ハル　須佐ハル　竜玄高橋ヨキ　渡辺ツミ　水田木村ウメ　須佐ヨシ　小向武田キン　米田キク　横川白井ミサオ

釜電気

笑々亭物好子



「オイ起きろよ、七時を廻ってるんだぞ!!」「うーん眠いわ、遅れると思ったらスイッチ位入れたらどうなの」女房思いの亭主、自動炊飯器購入の鍋にて毎朝御飯たき。

味噌汁なしでバタバタ支度を終り、「オイダバコ」と玄関でどなる「マッチイ」又どなる。奥さん何を思ったか「正ちゃん」「とぼけるなよ、テレビ番組でたくさんだ。」

御主人を見送りゆっくり朝食。さてなにしようかな? ぶらりとお隣りえ足を運ぶ。晩の映画行きを決め主人の帰りを待つ、玄関の戸が開く。

「私これから映画に行くからあなた一人で食べてお茶碗洗ってね、ついでに私の分のも。」こんな具合な因地の落第女房。実は聞いた話なんですけど、然し電気釜は便利ですね。「御免〳〵と電気釜などうっかり買ってやれねえ。」とおっしゃる前に一寸聞いて下さい。

小須戸の町には残念乍ら前に述べたような落第女房にはお目にかかれません。皆貞淑な? 女房ばかりですから心配せず共。時にはばっと女房を喜ばせてやって下さいねついでに愛鱗会、おんどり会の活発な皆さん、グループ活動の一端として料理講習会などいかがでしょうか。

婦人会、女子青年のみやるものと法律に決まった訳ではないのですから、時には女房の舌を巻く程の腕前を見せて下さいよ愛鱗会は「川魚料理」をテーマとして……さて〳〵わが主人より落雷を受けそうな無駄口ばかりたたきました。お気にさわったら御免なさい。

あくまでもこれは落し話しです。本気で拾わないで下さいね。念のため。

なぎさ

―伸びゆく小須戸―

中学校増築に協力を

教育長　佐藤五郎

小須戸町教育委員会では小須戸中学校の増築のことについて早くから学校当局と連絡をとりつつ研究を進めて来たところでありますが、町民各位から絶大な御理解と御支援をいただき、今や町民一般の与論ともなりつつあることに対して深く感している次第であります。従って増築の必要である理由等については、今更申し述べるまでもないようでありますが、一層御理解を深めていただきたいと存じますので、二、三の点についてふれてみたいと思います。

第一に、この二、三年間中学校生徒がいちじるしく増加するので現在の校舎には收容しきれないのであります。このことは単に小須戸町だけの問題ではなく、実に全国的な傾向なのであります。小須戸町ではこの四月中学校三年生二三八名卒業して新一年生が三四一名入学しましたので、差引一〇三名増加し、それによって学級数は三学級増加となり学校全体の学級数は七学級となったのであります。来年（昭和三十六年度）は二〇一名の卒業に対して三三四名入学するから一三三名増となり、学級はまた三学級増加し、更に昭和三十七年度になりますと、三〇四名卒業して四〇九名の入学で、差引一〇五名増でまた三学級増加しまして、この年は実に二十三学級の大規模学校となる予定でございます。その後、つまり昭和三十八年度からは生徒数も学級数も逐次減少して昭和四十年度以降は大体十九学級程度の学校になるものと予想されるのであります。これに対して現在の小須戸中学校の教室数はあらゆる特別教室全部を加えても二十三しかありませんので、来年度あたりから生徒達は現校舎のままでは特別教室を使用しないとどうしてもうまくやれない教科の教育をほとんど受けることができないということになります。このようなことは生徒の父兄としてはだまって見ていられないというのでPTAの皆さんが中心となられ先般中学校増築促進委員会というものを結成されたそうでございますが、まことにごもっともなことと存じます。

第二には、教育内容の改正に伴って現在の校舎ではとうてい満足な教育ができなくなるのであります。

中学校の現行教育課程が戦後十五年を経過した今日のわが国にとって、いろいろの点で不適当のものとなりつつあるために、これが全面的大改革がはかられ、特に時勢の要求から科学技術教育の振興ということが改正の中核をなすこととなります。そのためにはいわゆる普流の黒板とチョークだけではとてもやって行けないこととなり、特別教室もまたそこへ備える機械器具と大巾に必要となって来るのであります。それで、まず手っ取り早く申し上げますと今後中学生が進学するにも就職するにしても、必ずその進学や就職の試験問題にはただ書物の上の理論だけでなく少なくとも国で示された基準による設備によって教えられた実地の技術がどの程度身についているかどうかを検査する問題も出されることとなるのであります。

第三に、中学校の特殊性から教科によっては学級がいくつかに分解されて授業がなされることがあるので、教室数は学級数と同じ数だけあれば足りるというわけにはいかないのであります。その点小学校教育とは大いにちがうので、たとえば職業科において農業、工業、商業の三つを設置した場合生徒は希望によって、その中のどれか一つを選んで教育を受けることになりますから、一学級の生徒が三つに分解されそれぞれ別の教室で、それぞれの専門の教師から指導を受けることになるので学校の教室の数は学級数より多くあるようになっていなければならないのであります。

さて右のような理由でどうしても増築していただかなければならないのでありますが、右の三つの理由が同時にどれも満足のいくようにすれば最も理想的でございましょうが、そのためにはとても大規模な増築となり小須戸町の財政事情がとうてい許すところではないようにそれぞれ存ぜられます。そこで第一の理由のところで述べました昭和四十年度以降の学校規模に適合するようにして、第二第三の理由をできる限り満たすことのできる建築でがまんしなければならないのではなかろうかと考えられるのであります。それも一挙にというわけにいかなければ止むなく年次計画的に増築していくことになろうかと思われます。いずれにしても教育委員としては町当局と密接な連絡をとりつつ早急にその具体的計画案を樹立して教育上の支障を起さないように措置しなければならないのであります。

何とぞ町民の皆さんの御援助と御協力を心からお願い申し上げる次第であります。

入選発表

「おくれるな後の仕事がまっている」

時間励行標語

募集致した時間励行の標語は小、中学生の協力により次の通り入選が決定した。

一般の部の入選作品がなかったのは残念であった。

◎小学生の部一位

「おくれるな後の仕事がまっている」

小須戸六年　渡辺則男

二位

「いつもおくれる人」

小須戸六年　野崎文夫

「人より自分で守れ時間ときまり」

矢代田六年　馬場信代

三位

「きょうの時間はもうこないまっても〳〵」

小須戸六年佐藤美保子

「同じ時間は二度こない」

小須戸六年五十嵐久子

◎中学生の部一位

「定刻守ってよい町づくり」

三年　渡辺勇夫

二位

「時間守ってむだない生活」

一年　三浦三郎

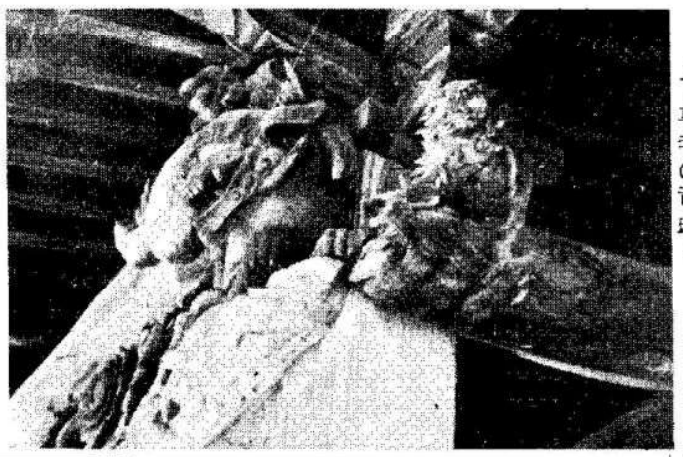
三位

「早くゆこう始まる時間の前までに」

三年　名沢昭二

「小須戸時間なくして明るい郷土」

一年　須藤浩子



〝了専寺の竜頭〟

三十五年 定期演習と表彰

小須戸消防団

小須戸町消防団定期演習は春祭り過る四月二十七日県消防課長外多数の来賓を迎え盛大に挙行されたが、式典席上消防事業に協力された団体、個人に対し町長、消防施設整備のため多額の資金を寄附されたこと。

(2) 第二支部、第四支部第六支部各青年会

火災予防の重要性を深く認識せられ、永年町内の火廻りを継続実施し災害の予防警火思想の普及に積極的に協力されたこと。

(3) 田中幸子殿

附近住家において火災の発生せんとした状況を発見、沈着敏捷なる処置をなし火災の防止に努めたこと。

つゆ時の衛生について

うっとうしい梅雨の月です。

むし暑いと思うと急にはだ寒くなったり一寸ゆだんをするといろ〳〵な病気にかゝりやすく家庭には一番厄介な月です。

この一ケ月は一層衣食住に心して一家そろって健康で夏をむかえたいと思います。

入梅といえばまず心配なのはカビです。

雨がふりつゞいて家の中がジメジメしてくるので手まめに手入れをしないと、物が傷んだり、くさったりします。

戸棚の中は度々熱いお湯で絞った布巾で拭いたのち、乾いた布巾でよく拭きちっとでも天気がよくなったら窓や戸棚を開放して乾燥させること。

また布巾は時々石鹸で煮洗してよく乾燥させて使うようにしたいものです。

夏をむかえても大丈夫なように今から身体をとゝのえておくことも大切です。

それには、身体を欠乏のない栄養状態にしておくこと、魚肉などの動物性食品も平均したとり方をすることです。

たとえば朝、魚や肉のないとき卵を食べるとか弁当に魚が入らなかったらソーセージというように、料理のしやすい融通のきく食べ方をすれば欠かすことなく食べられると思います。

野菜類もなるべくとる様にいつもなまのものを一皿とあとは汁の実やいためものなど、必ず一日一回はとるようにしたいものです。

本格的な暑さが近づくにつれて、これからいろいろな伝染病が発生しますが、中でも死亡率が高く患者数も多いのは赤痢疫痢です。

赤痢、疫痢は口から伝染する病気の一つで患者や保菌者のフン便、ハエなどによって伝染することはご存じの通りです。

そこで赤痢の予防には まず用便の後で手を消毒することはもちろん、食前の手洗いやハエの駆除も大切です。

また家の外まわりも、ゴミ箱や下水のあたりには薬剤を散布し、樹木などのあまりこみいっているところなどは刈こんで風通しをよくし日も当るように各自の環境をとゝのえ、健康で夏をむかえたいと思います。

〝住民課〟

子供の国

―ほうし―

子供の大きな泣き声が聞こえてきた。ハッとしてのぞくと一杯にあふれた用水掘の上に帽子が流れている。

ランドセルが歩いているような一年生が帽子を追って棒切れでバチャバチャやっている。落した子ははなれた所に立ったまゝ泣き続け、時々帽子に目をやっている。

ようやくにして腹ばいになってとらえた。

帽子の水を切りながら上気した顔を見せた子は輝くばかり……

走りよってきた子供の頭に水をすってへこんだ帽子の校章が光った。

ニッコリした。

小走りに去っていく二人の後から緑の田面を渡ってきた初夏の風が吹き抜けていった。

昼近い諏訪神社の見える農道で拾った大人の知らない子供の世界の出来事である。

落した原因は知らない考えようでは何でもない日常生活の一こまであるこの中から私たち大人は一体何をくみとるべきだろうか。

お願い

柔剣道クラブ

みなさん、おわかりと思いますが、毎週火土曜日の二日間公民館ホールに練習を行っておりますが、予算不足のため用具も思うに任せず困っております。各ご家庭で柔道又剣道の用具の不用なもの、胴が一つでも、又こてが一本でもけっこうですから、ご寄贈下さいますようおねがい致します。尚現物は、公民館又はクラブ員にお知らせ下さいますようお願い申上げます。

六月地区巡回映写会

◎横水分館地区

十六日　横川公会堂

十七日　横水分館

十八日　水田公民館

上映フィルム

県政ニュース37

私たちの学校

新しいかどで

十代の反抗

◎矢代田分館地区

二十日　矢代田公会堂

二十一日　第二保育所

二十二日　天ケ沢公会堂

二十三日　鎌倉公会堂

上映フィルム

かっぱのばあ太郎

ひとりの母の記録

いとしき子等のために

◎小須戸分館地区

二十五日　うでこき公

二十六日　小須戸公民館

二十七日　竜玄公会堂

二十八日　新保公会堂

上映フィルム

光りをめざして

今どきの嫁

以上の日程で映写会を行います　多数の鑑賞をお願い致します

フトン作り講習会

夏の掛フトン　赤ちゃんのフトン

フトンカバー　その他

とき　近日回覧板でお知らせします

ところ　公民館

講師　加藤キセ先生

共催　公民館　町分館　町部婦人会

小須戸風土記

「了専寺の竜頭」其の二

柏大治

了専寺の竜頭については左甚五郎の作品とか、会津兵火、小須戸大火の際も竜が水を吐いて寺を護ったとか色々の伝説がありますが、武洲熊ヶ谷の源太郎、石川藤吉、渡辺甫乳、畑野六左衛門等の名工が県下に作品を遺しておるので、この中の誰かであろうと先年紹介（本紙五十三号）しておきましたが、今回村松町の古くから伝わる宮彫師の家で原本の構図が発見されたそうです。宮彫師が村松からわざ〳〵竜頭を調査にきて傑作だと感心して帰りました。

それによると石川藤吉の作品であることがわかりました。然も現在では県下に了専寺の竜頭の他一、二の作品しか遺っていないそうです。

石川藤吉は徳川時代江戸の名工で其の刀法は極めて雄健とうたわれた人ですが、その経歴は不明です。

石川光明先生と同一人のように論じている人がありますが別人です。

村松藩の中興の祖といわれた堀丹後守直英公の時代、館が城主格に昇格することになり、大修理の際直英公は越後に名工がいないのでわざ〳〵江戸から石川藤吉を抱え城の大広門や衝立、欄間等の飾色のため彫刻をさせたといわれています。

おしいことに此の彫刻も戊辰の兵火で島有に掲し現在では村松郷にも石川藤吉の傑作をほとんど見ることができません。

又堀丹後守は城の彫刻が終った後も此の名人の彫刻をのこすため、後世の宮彫師の指導用として色々な彫刻の基本技術と構図を書き遺させたといわれています。

了専寺の竜頭もこの時代の作品だと思われますが、なにしろ殿様御抱彫師の彫刻では世間に名工の名をはばかり、白ハッの老人から貰った竜頭だとか、ただ名工の作だといっていたのが、左甚五郎作と後世伝説化されたのではないでしょうか、案外伝説から史実への解明の謎はこんなところにあるようです。

それにしても小須戸に名工石川藤吉の傑作竜頭のあることは茂林寺の国宝地蔵尊と共に小須戸文化に一段の光輝を増すことでありましょう。

（三五・六・六）

寺お講

展覧会終る

第九回近郷席書写生展覧会は寺お講の日の六月二十日小須戸町美術同人会小須戸町教育委員会、教育振興会共催、小須戸公民館後援で行われた。

席書の部での出品点数は五四一点（小学校三八三点、中学校一五八点）特選は小学校一〇九点中学校四六点であり他は入選であった。

写生の部では出品点数は二、四三八点（小学校一、五一六点中学校九二二点）特選は小学校四一点中学校一九点入選作一、一〇〇中学校四四〇点となり十九日二十日の両日写生の部佳作々品は会場の都合により展示することが出来なかった。

尚毎年行われる県下学生席書大会に今後の成績が期待されている。

原稿募集

建設的な意見をどし〳〵寄稿して下さい

おくやみ

自　五月一日
至　五月三十一日

板井清之丞　横川
阿部　孫一　新保
加藤　久一　朝日町
板谷虎五郎　鎌倉
古川　シゲ　新保
五十嵐ヨシウデコキ
竹石　治助　東町
高野　三治　天ケ沢

花祭

小須戸町俳句同好会

挨拶の花菜明りに笠とる娘　山葵
トランジスターラヂオを枝に桃剪定　水月
毛虫蹴く出勤前のひとときを　溪灯
古稀にして亡母恋う心草の餅　杏水
苗代の田螺が生めり濁り水　越稜
菜の花豊かに咲いて黄金色　一陽
囀りや真下宮居の保育園　香月
盆栽の欅若葉の見頃かな　虚秋
苗代に名札を立てて蒔き終る　竜朗
花火寄附日々に書き足す花祭　流水